

農報

水稲



水稲営農情報



水稲

新木 真一
農畜産課 課長
0969-22-1105

◎障害の回避は水管理で

登熟を向上させるためには、根の老化を防ぎ、刈り取り直前まで活力を維持することが大切です。そのため、間断灌水による水管理を励行しましょう。

収穫前の早めの落水は、乳白・心白・腹白米・粒張り不足の原因となり品質や食味を落とします。田んぼの排水路・排水溝を整備して、稲刈りに支障のない限り落水期は遅くまで延ばして下さい。(刈り取り5～7日前まで水田を乾かさない) 高温の期間が続くようであれば、水の掛け流しなどを行い、稲体を冷やして乳白・心白・腹白米の発性を抑えましょう。

◎適期刈り取りの励行について

一穂の籾の85%程度が黄色く熟れる頃が収穫最適期です。なお、茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっていることが多いので注意が必要です。

収穫時期の目安は、出穂期(ほ場の50%が出穂した日)から30日～32日程度が刈り取り適期となります。刈り取りが早い場合は青米・未熟米が多くなり品質が低下し食味も低下します。

刈り取りが遅い場合は胴割れ米・茶米が多くなり品質が低

下し、食味も低下します。

◎収穫・乾燥・調整の留意点

①コンバイン収穫

- ・刈り取り作業は、「つゆ」がなくなった頃から始めるのがもっとも効率が高く、しかも傷籾や穂切れ・枝こう付き籾の発生も少なくなります。
- ・こぎ胴の回転数が高すぎると傷籾の発生が多くなりますので、規定の回転数を守りましょう。
- ・収穫した生籾は、2時間以内に通風乾燥を行って下さい。

②掛け干し

高温の時期ですので乾燥に注意しましょう。

- ・期間は3～4日とし適正玄米水分15～16%で早めに脱穀しましょう。

③乾燥・調整について

うまい米づくりの総仕上げは乾燥調整です。

- ・乾燥は玄米仕上げ水分15%を目標とします。過乾燥は品質食味を落としますので注意して下さい。
- ・乾燥にあたっては高温乾燥にならないよう機種にあった温度設定で行いましょう。
- ・乾燥直後は籾水分のばらつきが大きく常温まで穀温を下げないと籾摺作業で肌ずれが発生しますので注意して下さい。

花卉



クルクマ栽培について



花卉

中原 英幸
下島営農指導センター
080-1729-1629

| 項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|--|----|----|----|----|----------|----|----|----|-----|-----|-----|
| 栽培体系 | | ○ | ○ | | | ← 通常栽培 → | | | | | | |
| | | | | | | ← 据置栽培 → | | | | | | |
| 元肥 | 10a当り窒素、燐酸、加里を成分で10～15kg程度施用します。(肥料名:GDU555、エコロング、LPコートなど) | | | | | | | | | | | |
| 定植 | 畝幅135cm、畝間75cm、株間40cmの千鳥植え。10a当り3,000球程度。 | | | | | | | | | | | |
| 追肥 | 1次茎を採花後、追肥を行います。肥料が切れると葉色が薄くなり、勢いもなくなります。葉色を目安に追肥を行います。硫加燐安、天草花、ロク肥料などを施用するか、液肥を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 通常管理 | 定植後は十分に灌水を行い、こまめに灌水を行います。葉が外側に巻く状態は水をほしがっているサインですので、花の部分に水が常に溜まるように水管理します。定植後、保温のため畝にビニール被覆する場合は、灌水不足だと球根が焼け腐敗するので注意します。風に弱いため、基本的にはサイドビニールを設置し、サイドは開けたままとします。基本的には遮光資材は行いませんが、品種次第では包葉が日焼けしますので、20%以内の遮光を行います。雑草対策として、定植後、芽が出る前にゴーゴーサン乳剤を散布します。雑草が大きくなってからは効果がありません。また、敷ワラやヤシガラ、ケイトップ等を畝へ敷き、雑草対策とします。 | | | | | | | | | | | |
| 越冬管理 | 球根が10℃以下の低温管理では腐敗しますので、出来る限り保温に努める管理が必要となります。掘り上げて球根貯蔵するには、腐敗率が高くなりますので、基本的にはハウスでの圃場据置きとします。冷蔵庫がある場合、15℃程度で管理保管することにより、腐敗を防げます。地上部の葉が枯れたら切り取って、ハウス外で処分します。外気温が10℃以下になる頃、ハウスを閉め切ります。12月に入り、土壌表面にビニール被覆し寒害を防ぎます。できればサイド及び天井ビニール二重カーテンします。 | | | | | | | | | | | |
| 越冬後管理 | 被覆ビニールを除去後、灌水を十分に行います。また、さび斑病防止のために、殺菌剤で灌水処理を行います。出芽前にゴーゴーサン乳剤で雑草対策を行います。被覆ビニールを除去するタイミングが遅れると芽が焼けるので注意します。基本的には、形体1の管理と同じとなります。 | | | | | | | | | | | |
| 据置追肥 | 出芽後速効性、緩行性肥料を施用します。10a当り各成分で10kg程度です。肥料名は形体1と同じです。肥料によりませんが、1ヶ月～3カ月に1回の割合で追肥を行います。液肥でもよいかと思います。 | | | | | | | | | | | |

○病虫害防除

害虫では、ヨトウムシ類とナメクジ類となります。定期的に防除します。

| ＜ヨトウムシ類＞ | ＜ナメクジ類＞ |
|---------------------|----------------------------------|
| プレオフロアブル 1,000倍 | スラゴ 5g/m ² 発生場所及び株元配置 |
| アフーム乳剤 1,000～2,000倍 | |

病害では、さび斑病が多発生します。定期的に防除し、発生を抑えます。球根への灌水処理が効果があります。拮抗菌がつかないよう同じ系統の薬剤散布連用を避けず。

＜さび斑病＞

| 系統 | 薬剤名 | 希釈倍数 | 使用方法 |
|------------|------------|----------|------|
| 抗生物質 | ポリバリン水和剤 | 1,000倍 | 散布 |
| 有機硫黄系 | ジマンダイセン水和剤 | 400～600倍 | 散布 |
| ベンゾイミダゾール系 | ベンレート水和剤 | 1,000倍 | 散布 |



シャロームピンク



エメラルドバゴタ



抑制力ポチャ栽培



野菜

平田 優輝

下島営農指導センター
080-1729-1639

| 作型 | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | | |
|----|------|------|------|----------|----|----|-----|----|----|-----|----|----|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| | ○<→○ | ◎<→◎ | ◎<→◎ | | | | | | | | | |
| | 播種 | 定植 | | 誘引・交配・葉散 | | | | | 収穫 | | | |

1. 品種 くりゆたか

2. 圃場準備

排水対策を徹底し、畦幅は3~4mの高畦ベッドを作る。
施肥量 (kg)

| 10a 当たり | N | P | K |
|---------|-------|-------|-------|
| 基肥 | 12~15 | 20~25 | 12~15 |
| 追肥 | 3 | 3 | 3 |
| 合計 | 15~18 | 23~28 | 15~18 |

3. 播種

8月上旬~中旬に直播又は、セルトレー・ポットに播種する。播種量は10a 当たり1本仕立て1000粒、2本仕立て500粒必要。

4. 定植

一本仕立ては株間30cm、二本仕立ては株間70cmで、植穴処理を行い定植。活着するまでは灌水する。

5. 整枝

一本仕立て
主枝が60cm位伸びた頃わき芽を除き、風等で動かないように主枝を等間隔に杭や棒等で真直ぐ固定する。着果位置は、9~12節程度で、株元から70~100cmの長さに着果させる。

二本仕立て
本葉が4~6枚残り摘芯する。子づるが15~20cmほど伸長したら、良好なつるを2本残り他はかぎとる。後の管理は1本仕立てに準ずる。

6. 交配

9月上旬~下旬にミツバチ等や雄花を利用した人工交配により必ず着果させる。

7. 追肥

着果確認後にソフトボール大の大きさになった頃、速効性肥料を施用する。中耕と除草を兼ねて蔓が1mほど伸びた時に待ち肥を行う。

8. 収穫

着果後45~50日前後で収穫。

9. 病害虫

アブラムシ、オンシツコナジラミ、ハモグリバエ、うどんこ病等が発生する為早めの防除を行う。

営情



7月の柑橘園管理



果樹

山下 俊二

下島営農指導センター
080-1729-1632

7月に入りますと梅雨も明けて、夏がやってきます。今後乾燥しやすい園地では肥大や減酸促進させる為、かん水を行います。

また、今月より摘果の時期となります。暑い中の作業となりますが、肥大を良くする為にも早期に摘果作業に取り掛かり高品質果実生産を行います。

1. 病害虫防除

6月にハーベストオイルを散布できなかった園地では、7月上旬までに散布を終えて下さい。希釈倍数は200倍での散布となります。

また、夏芽の発生に伴いアブラムシ等の防除も必要となりますので、適期防除をお願いします。

| 対象品種 | 防除時期 | 対象病害虫 | 農薬名 | 希釈倍数 | 備考 |
|-------|------|-----------------|-----------|--------|------|
| 温州中晩柑 | 上~中旬 | 黒点病 | ベンコセブ水和剤 | 600倍 | 混用散布 |
| | | アザミウマ類、ゴマダラカミキリ | モスピランSL液剤 | 4,000倍 | |
| | - | ミカンハダニ | バロックフロアブル | 2,000倍 | 発生時 |
| | - | ハマキムシ | オリオン水和剤40 | 1,000倍 | 発生時 |

2. 施肥

| 栽培タイプ | 施用時期 | 品種名 | 肥料名 | 10a 当たり袋数 |
|--------|------|-------------------------|--------------|-----------|
| 通常タイプ | 7月中旬 | テコボン | 熊本テコボン 8-3-3 | 2袋 |
| 省力化タイプ | 7月上旬 | 清見・河内晩柑・甘夏 パール柑・テコボン | アグリロング 28号 | 6袋 |

3. 摘果の実施

○温州みかん・・・小玉果や病害虫果を中心に摘果を行って下さい。また、日焼けしやすい上向き果も摘果を行うようにしましょう。

○中晩柑・・・今月の中旬あたりをメドに粗摘果を行って下さい。粗摘果では目標着果数の7~8割程度まで落とし、裾

成り・内成を最初に落とします。その後赤道部と樹上部を落とします。この際、小玉果や傷果を落とすようにしましょう。

| 品種名 | 目標階級 (収穫時) | 7月10日 | 7月20日 | 8月1日 |
|------|------------|-------|-------|------|
| テコボン | 2L | 30ミリ | 35ミリ | 43ミリ |
| 清見 | 2L | 37ミリ | 44ミリ | 49ミリ |
| 甘夏 | 2L | 38ミリ | 47ミリ | 57ミリ |
| 河内晩柑 | L | 45ミリ | 55ミリ | 59ミリ |
| パール柑 | 2L | 57ミリ | 67ミリ | 75ミリ |

4. 温州みかん品質向上対策

○タイベック被覆の実施

品質向上の為に、タイベック被覆を行きましょう。また、被覆後は定期的に果実分析を行い、品質に応じた水分管理を行きましょう。

| 品種名 | 被覆時期 | 品種名 | 被覆時期 |
|----------------|------|-------|------|
| 肥のあかり・豊福・肥のさやか | 6月下旬 | 南柑 | 7月中旬 |
| 肥のあけほの・早生 | 7月中旬 | 青島・金峰 | 8月上旬 |

○フィガロン散布の実施

マルチ被覆と併せ、フィガロンを散布する事により品質の向上を図ります。下の表を参考に実施しましょう。

また、樹勢が弱った樹に散布しますとますます樹勢を低下させてしまいますので、使用は避けて下さい。

※使用薬剤 フィガロン乳剤

2回目の散布は1回目の散布から20日後に行ってください。但し、収穫前日数は21日までとなっていますので、ご注意ください。

| 品 種 | 1回目 | | 2回目 | |
|--------|-------|--------------|------|--------------|
| | 散布時期 | 希釈倍数 | 散布時期 | 希釈倍数 |
| 極早生 | 7月中旬 | 2,000~3,000倍 | 8月上旬 | 3,000倍 |
| 肥のあけほの | 7月中旬 | 2,000~3,000倍 | | |
| 早生 | 7月中下旬 | 2,000~3,000倍 | 8月中旬 | 2,000~3,000倍 |
| 普通 | 7月下旬 | 2,000~3,000倍 | 8月中旬 | 3,000倍 |